

Ⅲ 委員会活動

医療安全管理委員会

文責／長尾建樹

◎目的

医療安全は、医療従事者にとって医療の本質に関わるため、常に追求し続けなければならない命題である。安全な医療の提供は、医療機関におけるすべての領域において基本となるものであり、しっかりとした医療安全管理体制を確立した上で、全職員が医療安全の必要性・重要性を認識して日々の業務を遂行しなければならない。これらを達成するため、各部署に医療安全管理者と安全管理室担当者を置き、医療事故はもとより様々なインシデントの報告を求め、医療安全管理委員会で分析と再発防止や事故を未然に防ぐための対策を検討している。これらの結果をもとに全職場に提言を行い、その達成状況を常に監視しながら安全で安心な医療機関を目指している。

◎メンバー(2022.3現在)

医療安全管理責任者：長尾建樹(委員長／院長)

医療安全管理者：遠山和博(診療部)、
渡邊典子(医療技術部)、
伊藤恵美(看護部)、
大木勇司(事務部)、
香取文男(佐倉ホワイエ)

患者相談窓口専任者：今井映美(事務部)

安全管理室：

加藤真理子(副委員長／安全管理室専任者／看護部)、
渡邊由美子(医療技術部)、酒和昭子(看護部)、
成田 薫(事務部)、檜貝修之(事務部)、

オブザーバー：中臺 昭(診療部)

◎開催日

第3月曜日、午後0時45分

◎活動報告

1. 新たに医療安全管理規程を策定した。
2. これまで活用していた特定出来事報告書からインシデントレポートへ変更し、事例検討方法も変更した。
3. 印旛地区医療安全担当者連携会議への参加。

◎今後の目標

1. 電子カルテシステムの導入に伴いインシデントレポートや事故報告書の提出をオンライン化する。
2. 各部署での検討強化を図り、年に数回、それぞれの職場で検討された事象を全職員へ向けて発表する医療安全研修会を開催する。
3. 安全管理のエキスパートを招聘して、全職員への講演と我々の安全管理体制に対する客観的評価を行う機会を設ける。

院内感染対策委員会

文責／中臺 昭

◎目的

院内の感染予防のため、必要なサーベイランスを行いながら、感染対策に必要な情報や技術を共有し、各メンバーが取得するとともに、院内各スタッフ、入院患者、来訪者に情報を伝達できるよう、マニュアルの整備、各種掲示、研修会等を充実させる。

◎メンバー(2022.3現在)

委員長：中臺 昭(診療部)
副委員長：高田美里(診療部)、
本澤葉留美(医療技術部)、榎本奈々(看護部)
診療部：長尾建樹、遠山正博
医療技術部：渡邊典子、渡邊由美子、菅原直彦、
足立明久、前田泰宏、前川名緒子、
池浦あゆみ
看護部：伊藤恵美、青木富士子、篠澤慶子、
加藤真理子、青木時枝、中臺和枝、
菊池美奈子、田中香織、

小林美鈴(厚生園訪問看護ステーション)

事務部：大木勇司、吉井大仁、檜貝修之、林 隆広、
山田陽子

佐倉ホワイエ：清治恵子

清掃委託業者：(株)スリーエス

◎開催日

第2月曜日、午後1時

◎活動報告

1. 院内感染の状況の把握および分析、情報の管理、提供
①MRSA・緑膿菌・インフルエンザ・感染性胃腸炎等を対象とし、上記感染症の定期あるいは随時レポートを作成した。
②週1回、全病棟のICTラウンドを義務付けし、効率よく効果的な巡視ができるように尽力した。
③新型コロナウイルス感染の予防対策、院内発生を想定した院内体制の構築シミュレーション等を行い、感染症の院内発生を予防と発生時の体制作りに注力

した。

- ④院内の新型コロナウイルス感染発生の予防と拡大防止のため、職員・家族に対しては、発熱、上気道炎症状等があれば早期にPCR検査を実施し、感染症状時の休職できる体制を作った。また、入院患者に対しては、原則、発熱があれば抗原検査を行って対応した。

2. 院内および外部からの院内感染防止に関する情報の収集、整理、分析、提供

当院では成田赤十字病院ほか6病院と院内感染対策に係わる連携共同カンファレンスを行っている。

主にICTメンバーが参加し、成田赤十字病院開催の研修会や院内感染に関するディスカッションを行った。

3. 院内職員に対する院内感染防止のための教育、研修、啓蒙活動

- ①研修会や勉強会の開催、定時(委員会開催時)および随時必要情報の配布

②研修会開催

【全職員対象】

- ・「感染症の基礎知識と感染防止の基本」
- ・「感染予防に役立つ消毒・感染防具の基礎知識」
- ・「院内肺炎—嚥下性肺炎を中心に—」
- ・「インフルエンザ、感染性胃腸炎など冬季感染症の基礎知識と感染対策」

【新人対象】

- ・「院内感染の基礎知識と感染防止の基本について」(2回/年)

◎今後の目標

- 1.アウトブレイクの予防と早期発見、対応および早期終息できる体制作りを目指す。
- 2.院内感染予防のため、職員の抗体検査と予防接種ができる環境を充実させる。
- 3.発熱外来を実施し、地域の新型コロナウイルス感染症の早期収束に寄与する。

収支改善経営会議

文責/遠山正博

◎目的

毎月、厚生園グループの収支状況を報告し、収支改善策を検討した。

◎メンバー(2022.3現在)

委員長：遠山正博(診療部)

診療部：常勤医師

健診部：部長

医療技術部：各課(科)長

看護部：部長、副部長、

厚生園訪問看護ステーション所長

事務部：部長、次長、各課長、総務課係長(財務担当)

佐倉ホワイエ：事務長

厚生園ケアマネジメントセンター：管理者

◎開催日

第4月曜日、午後1時

◎活動状況

- 1.外部コンサルタントを交えて佐倉厚生園グループの責任者が集まり、増収策、経費削減策を検討した。
- 2.2021年7月からは、長尾新病院長が担当し、後期補正予算編成、組織の一部改変、経費節約など、収支改善策を実行した。
- 3.送迎バスを運行するなど、患者サービスの向上を図った。

◎今後の目標

- 1.現状の収益を保持しながら、更なる増収を図るため、方策を検討する。
- 2.佐倉厚生園グループの連携を強化する。
- 3.在宅医療(訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション、ケアマネジメントセンター)の連携を強化し、増収を図る。

院内連絡会

文責/遠山正博

◎目的

全職員に対し、院内重要連絡事項をもれなく伝達する。

◎メンバー(2022.3現在)

委員長：長尾建樹(院長)

診療部：常勤医師

健診部：部長

医療技術部：各課(科)長

看護部：部長・副部長・各病棟・外来師長・

訪問看護ステーション所長

事務部：部長・次長・各課長

佐倉ホワイエ：事務長

厚生園ケアマネジメントセンター：管理者

◎開催日

第1月曜日、午後1時

◎活動状況

- 1.佐倉厚生園病院に加え、厚生園グループ(佐倉ホワイエ、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所)の責任者が集まり、病院の基本的経営方針や伝達事項を

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

職員全員に伝達した。

2.各部署からの連絡事項を伝達した。

◎今後の目標

全職員に対し、病院の日常情報をもれなく伝達する。

診療会議

文責／遠山正博

◎目的

佐倉厚生園病院の診療に関する委員会より、活動報告を受け検討、統括する。

◎メンバー(2022.3現在)

委員長：長尾建樹(院長)

診療部：常勤医師

健診部：部長

医療技術部：各課(科)長

看護部：部長・副部長・各病棟・外来師長・
厚生園訪問看護ステーション所長

事務部：部長・次長・各課長

佐倉ホワイエ：事務長

厚生園ケアマネジメントセンター：管理者
委員会(委員長)：

薬事審議委員会、

回復期リハビリテーション病棟運営委員会、
療養病棟運営委員会、外来運営委員会、
臨床検査適正委員会、ドック健診委員会、
入院判定委員会、保険査定返戻検討委員会、
診療録管理委員会、診療記録等開示委員会、
個人情報保護推進委員会、褥瘡対策委員会、
栄養給食委員会、NST委員会

◎開催日

第1月曜日、午後1時

◎活動報告

各委員会より活動報告をうけ、診療活動の適正を検討した。

◎今後の目標

病院の診療に関する問題点を発見し、改善する。

病院機能推進会議

文責／遠山正博

◎目的

各委員会より病院機能向上に関する活動報告を受け、協議する。

◎メンバー(2022.3現在)

委員長：長尾建樹(院長)

診療部：常勤医師

健診部：部長

医療技術部：各課(科)長

看護部：部長・副部長・各病棟・外来師長・
厚生園訪問看護ステーション所長

事務部：部長・次長・各課長

佐倉ホワイエ：事務長

厚生園ケアマネジメントセンター：管理者

委員会(委員長)：

教育・研修委員会、サービス向上委員会、
広報・ホームページ運用委員会、
臨床検査適正化委員会、
システム管理(電子カルテ)委員会、
グループ連携会議、衛生委員会、予算委員会

◎開催日

第1月曜日、午後1時

◎活動状況

各委員会の活動を通して、病院の機能向上の取り組みについて協議した。

◎今後の目標

- 1.病院の機能に関する問題点を発見し、改善する。
- 2.地域住民に佐倉厚生園病院を信頼・安心して利用していただけるよう、機能の向上に努める。

回復期リハビリテーション病棟運営委員会

文責／菅原直彦

◎目的

- ・全ての患者がより良いリハビリテーションを受けられるよう、回復期リハビリテーション病棟の質の向上を図る。
- ・医療専門職が共同でチームを組み、患者が退院した後の生活を見据えて、入院時からチームでサポートする。

◎メンバー(2022.3現在)

委員長：菅原直彦(医療技術部)

診療部：長尾建樹、遠山和博

医療技術部：

(薬剤科)本澤葉留美、永井麻紀

(リハビリテーション室)佐藤 光、高橋健次、
小林宏彰、古谷直子

(栄養給食科)及川野絵子

看護部：伊藤恵美、青木富士子、中臺和枝、印南里子

事務部：佐野香苗、山田陽子、小澤智之

◎開催日

第3木曜日、午後2時

◎活動報告

2021年回復期データ報告

- ・ベッド稼働率93.7%
- ・入院患者数：全体190人

【内訳】

脳血管疾患113人／整形疾患60人／廃用疾患17人

・入院日数

脳血管疾患105.6日／整形疾患62.3日／

廃用疾患82.8日

・在宅復帰率79.4%

・重症者比率66.7%

・患者1人1日あたりの平均単位数：7.30単位(昨年度7.37単位)

・アウトカム実績指数

【月別内訳】

2021年4月40.1／7月33.3／10月38.7／1月42.8

【疾患別内訳】

脳血管疾患65.1／整形疾患34.4／廃用疾患47.9

今年度も昨年度と同様、新型コロナウイルスによる制限があるなかでの退院支援となった。今年度の新たな問題として、コロナ蔓延以前と比較してカンファレンスや家族指導の頻度が減ったことが挙げられる。また、面会制限等により家族が患者自身の状態を把握することが難しく、自宅に帰れる状況であっても早い段階で退院先が施設方向となるケースが増えた。なお、昨年度から続く退院支援(家族指導・自宅の環境調整)不足については、当院の訪問リハビリステーションを利用してもらうことでサポートできたと考える。

◎今後の目標

2022年度も新型コロナウイルス感染症関連により様々な制限や制約が予想される。感染対策をしっかりと講じた上で、患者やその家族が在宅復帰にあたり不安がないよう退院支援を行いたい。また、排尿自立支援加算の算定に向けて準備を進めたい。

療養病棟運営委員会

文責／中臺 昭

◎目的

各職種スタッフが療養病棟内にて円滑で効率よい診療ができるよう、各部門や職種間および訪問部門とともに情報を共有・部門間連携を行っていく。

◎メンバー(2022.3現在)

委員長：中臺 昭(診療部)

診療部：遠山和博(副委員長)

医療技術部：

(薬剤科)渡邊典子

(リハビリテーション室)菅原直彦、足立明久、
佐藤 光、安東晋介

(栄養給食科)池浦あゆみ

看護部：青木富士子、篠澤慶子、加藤真理子、

青木時枝(副委員長)、田中香織、

林 桂子(厚生園訪問看護ステーション)

事務部：吉井大仁、馬場久美子

厚生園ケアマネジメントセンター：高橋隆彦

◎開催日

第3木曜日、午後1時

◎活動報告

・療養病棟の病床稼働率、日当点、医療区分割合など、関連部門より稼働状況を報告してもらいながら、稼働率や収益上の問題点を検討した。

・療養病棟内でより円滑に業務を遂行し、高い稼働率の維持と効率のよい診療ができるよう、在宅の病院関連部門と連携を取りながら、関連部門と各職種間の調整をした。

◎今後の目標

療養病棟における診療上の課題を明らかにし、効率的で高稼働率を図りながら、より良い診療および経営上、健全な医療を目指す。

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

褥瘡対策委員会

文責／圓城寺美佳

◎目的

当院における院内褥瘡対策を討議・検討し、その効率的な推進を図る。

◎メンバー(2022.3現在)

委員長：高田美里(診療部)

副委員長：圓城寺美佳(看護部)、藤井尚美(看護部)

医療技術部：

(薬剤科)永井麻紀、本澤葉留美

(リハビリテーション室)大芦恵太、松村咲希

(栄養科)及川野絵子、池浦あゆみ

看護部：若松香寿美、細根ふさ子、加賀谷裕子、

中條優子、佐野真弓、澁 妙、荒川比呂美、

西巻京子、三浦雪子、根本優子、川田利枝、

永井左和子、吉田博子、

奥田真衣(訪問看護ステーション)

事務部：鈴木弘子

佐倉ホワイエ：宮内美子、米嶋いつ子、細島ひさゑ

◎開催日

第3水曜、午後1時

◎活動報告

1. 月間発生転帰報告

2. 褥瘡回診

3. 褥瘡の予防対策、状態把握と評価

①発生リスクアセスメント

②褥瘡患者の評価

③NSTチームとの協働、栄養状態の評価

④勉強会の開催

4. 研修会参加

【院内】

看護部新人研修「褥瘡ケア」

「IAD(失禁関連皮膚炎)を予防するためのスキンケア」

「食事が安全に食べられるポジショニング」

【院外】

「褥瘡だけでない！トータルケアを目指す”基本から応用まで学べる摂食・嚥下とポジショニング」

「脳血管疾患の栄養管理～摂食機能障害・褥瘡ケアを中心～」

「第23回日本褥瘡学会学術集会」

「地域の医療従事者の資質向上のための研修会「褥瘡の局所治療とケア」」

「褥瘡・スキンケアの栄養管理」

5. 褥瘡治療実績(2021.4.1～2022.3.31)

褥瘡件数【内訳】持込件数 43件(36人)

院内発生 19件(16人)

治癒 53件(前年度繰越4件含む)

(47人)(前年度繰越3人含む)

退院(未治癒)10件(8人)

次年度繰越 15件(11人)

◎今後の目標

褥瘡ケアの正しい知識・技術の提供を継続する。また、NST委員会と協働し、褥瘡の早期治癒および発生予防に対して、栄養面、嚥下面からのアプローチを行うことができる。

教育研修委員会

文責／篠澤慶子

◎目的

①院内多職種職員の職務上の知識の研鑽を促し知識に精通できるよう研修会を企画し実施する。

②医療・研究を推進し学会発表につなげる。

③教育・研究を通じて信頼される医療・看護の提供ができるようにする。

◎メンバー(2022.3現在)

委員長：篠澤慶子(看護部)

診療部：中壘 昭(副委員長)、遠山和博

医療技術部：

(薬剤科)渡邊典子(副委員長)、本澤葉留美

(リハビリテーション室)佐藤 光

看護部：印南里子

事務部：江藤朋博、遠藤友美、馬場久美子、飯島智恵子

佐倉ホワイエ：平澤三枝子

◎開催日

第4木曜日、午後0時45分

◎活動報告

1. 各部署より提出された研修会年間計画のもと、日程調整を行う。研修会主催者は、事務室に設置した研修会予定表への記載を行う。

2. 研修会の開催案内を各部署に配布し、職員閲覧場所に掲示する。

3. 研修会終了後、アンケートを回収・分析し、随時研修会の開催依頼を行う。

4. 教育研修規定の見直しを行う。

5. 全職員へ研修受講カードを配布し、研修会参加時はカードを持参することとする。年間で多く出席した職員を報奨する。クリスマス会にて上位10位に表彰状、図書カードを授与。

6.教育研修委員会主催による「新人職員研修会」を年2回(4月/10月)開催。

7.研修内容

「接遇」「医療安全」「院内感染」「就業規則」

2021年度研修会実施報告は下記を参照。

◎今後の目標

1.佐倉厚生園病院職員としての質を高めるため、さらに

充実した研修会を企画する。

2.公益財団法人事業の一事業所として、外部団体等主催の学会等での発表技術向上に向けて、外部講師を招くなど院内研修を充実させる。

3.研修会受講カードを発行し、研修会参加人数の増員を図る。

●2021年度 院内研修実施一覧表

番号	開催日	テーマ (内容)	演者 (発表者)	参加者 人数 合計
1	2021.4.2	看護部新人職員研修	伊藤恵美	7
2	2021.4.2	看護部新人職員研修	印南里子	7
3	2021.4.2	職場におけるハラスメント外部相談窓口	(株)情報基盤開発 宮澤優歌	74
4	2021.4.2	看護部新人職員研修	榎本奈々	7
5	2021.4.3	看護部新人職員研修	圓城寺美佳	7
6	2021.4.5	看護部新人職員研修	青木時枝	9
7	2021.4.5	看護部新人職員研修	鈴木浩子	9
8	2021.4.5	新人研修 ～院内感染～	中基 昭	18
9	2021.4.5	看護部新人職員研修	加藤真理子	5
10	2021.4.6	看護部新人職員研修	足立明久	10
11	2021.4.6	看護部新人職員研修	藤井尚美	3
12	2021.4.6	新人研修 ～接遇～	伊藤恵美	18
13	2021.4.6	看護部新人職員研修	佐藤 光	10
14	2021.4.7	看護部新人職員研修	及川野絵子・永井麻紀	7
15	2021.4.8	看護部新人職員研修	菊間友晃	7
16	2021.4.8	新人研修 ～医療安全～	加藤真理子	19
17	2021.4.9	新人研修 ～就業規則～	原田一樹	14
18	2021.4.24	糖尿病教室		6
		糖尿病総論	佐々木憲裕	
		災害時に備えて	杉山緋登美	
19	2021.4.27	糖尿病症例検討会	清水敬之	7
20	2021.5.22	糖尿病教室		7
		糖尿病と歯周病の関係について一緒に探ってみましょう	岸本恵美	
		間食について	酒井由貴	
21	2021.5.25	主病名に隠れた糖尿病	本澤葉留美	9
22	2021.6.4	夜間の緊急対応について	看護部教育委員会	28
23	2021.6.11	看護学生の臨地実習を受け入れる心構え	山本清美	22
24	2021.6.22	食生活改善によりHbA1cが低下した症例	池浦あゆみ	18
25	2021.6.23	コーチング	伊藤恵美	15
26	2021.6.26	糖尿病教室		10
		お薬と低血糖について	渡邊典子	
		糖尿病の検査について	前田淑江	
27	2021.6.30	院内肺炎(NHCAP)-嚥下性肺炎を中心に-	高田美里	146
28	2021.7.9	伝わるプレゼンテーション	菊間友晃	27
29	2021.7.28	フィジカルアセスメント「①中枢神経系」オンデマンド	東邦大学看護企画室 認定看護師	23
30	2021.7.29	感染症の基礎知識と感染防止の基本とCovid-19について	中基 昭	209
31	2021.8.17	コーチングI	伊藤恵美	7
32	2021.8.25	フィジカルアセスメント「②中枢神経系」オンデマンド	東邦大学看護企画室 認定看護師	16

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

番号	開催日	テーマ (内容)	演者 (発表者)	参加者 人数 合計
33	2021.8.30	感染予防に役立つ消毒・感染防御の基礎知識 (標準予防策)	本澤葉留美・前田淑江	192
34	2021.9.3	医療安全の基本と出来事発生時の対策の立て方	中墓 昭	220
35	2021.9.10	看護者・介護者の基本姿勢と態度	印南里子	21
36	2021.9.21	IAD(失禁関連皮膚炎)を予防するためのスキンケア	中條優子	40
37	2021.9.22	フィジカルアセスメント「③呼吸酸素法」オンデマンド	東邦大学看護企画室 認定看護師	20
38	2021.10.7	新勤怠システム～一般職向け説明会～	京葉システム(株) 加藤智士	68
39	2021.10.8	輸血療法の基本	遠山和博	38
40	2021.10.11	新人研修 ～院内感染～	中台 昭	13
41	2021.10.12	新人研修 ～就業規則～	原田一樹	12
42	2021.10.14	新人研修 ～医療安全～	加藤真理子	12
43	2021.10.15	新人研修 ～接遇～	伊藤恵美	13
44	2021.10.22	機能的脳神経外科 ～パーキンソン病の外科治療を中心に～	長尾建樹	103
45	2021.10.27	ラインケア研修会「ストレスチェック集団を用いて より働きやすい職場の実現プランの検討」	(株)情報基盤開発 村上大介	45
46	2021.10.28	フィジカルアセスメント「④循環」オンデマンド	東邦大学看護企画室 認定看護師	21
2021年度 看護部研究発表会				
47	2021.11.5	手の拘縮した患者に対する重曹水を用いた手浴の有効性	鈴木光江	49
		夜間の気管吸引が睡眠および身体に与える影響	榎本洋子	49
		認知症のある糖尿病高齢者の在宅療養支援の取り組み ～外来と多職種連携を振り返って～	藤井尚美	49
48	2021.11.16	セルフケア研修会	(株)情報基盤開発	125
49	2021.11.26	「ストレスとうまくつき合うポイント」	瀧澤美樹	70
50	2021.11.20	佐倉厚生園グループ研究発表会2021年度	鈴木光江・榎本洋子 藤井尚美・印南里子 田代浩之・佐田龍吾 蒔田法律事務所 蒔田 覚	110
51	2021.11.27	糖尿病の運動療法～屋外ウォーキング～	清水敬之	5
52	2021.11.29	インフルエンザ・感染性胃腸炎(ノロウイルス中心)の感 染対策	本澤葉留美・前田淑江	221
53	2021.12.6	佐倉厚生園病院の生い立ち	サンタクロース	132
54	2021.12.7	あなたに合った資産形成術	ソニー生命 大谷猛	21
55	2021.12.10	認知症高齢者の看護ケア	縣正興	18
56	2021.12.13	チームナーシング移行後の振り返り	青木富士子	26
57	2022.1.18	医療制度の概要及び病院の機能と組織の理解	伊藤恵美	12
58	2022.1.26	医療安全管理体制について	加藤真理子	
59	2022.2.5	公益財団法人日産厚生会「第8回医学フォーラム」	鈴木光江・若松香寿美 藤井尚美・印南里子 田代浩之・佐田龍吾	
60	2022.2.15	輸液ポンプの取り扱い方	(株)TOP 森田知樹	54
61	2022.3.11	人工呼吸器の取り扱い方	日本光電工業株式会社	45
62	2022.3.15	生体モニターの使用方法	フクダ電子南関東販売 (株)	48
63	2022.3.23	手指消毒・環境整備の重要性について	榎本奈々	38
64	2022.3.28	食事が安全に食べられるポジショニング	根本優子	38
65	2022.3.31	診療用放射線に係る安全管理体制について	田代浩之	84

サービス向上委員会

文責／渡邊典子

◎目的

当委員会は、当院を利用される患者、家族および職員に、よりよい療養環境の下で安心、安全、快適なサービスを提供できるよう、向上策を企画、立案して、園議に答申し、医療と看護の質の向上を目指す。

◎メンバー(2022.3現在)

委員長：渡邊典子(医療技術部)

診療部：佐久間伸介

医療技術部：

(レントゲン室)田代浩之(副委員長)

(リハビリテーション室)菅原直彦、田邊友美

看護部：青木富士子(副委員長)

事務部：八本光太郎、杉山暁美、柏熊裕子

◎開催日

第2火曜日、午後0時45分～

◎活動報告

8月末に職員更衣室(地下男子更衣室)の改修工事が完了した。

各部署にて検討後、老朽化した椅子を取り替えた。

職員駐車場の台数不足への検討を行った。

患者満足度アンケートは、OFFICE365の集計ソフトを利用して実施する方法を検討した。

◎今後の目標

感染対策をしながら、患者満足度調査の実施を目指す。調査の結果を取りまとめて、患者サービスの向上を目指す。職員満足度調査であげられた意見について継続的に対応し、職員の働きやすい職場環境を目指す。患者・職員ともにサービスの向上につなげたい。

NST委員会

文責／永井麻紀

◎目的

患者の栄養状態の改善を図り治療効果を高めるために、多職種が連携し、栄養障害の早期発見・早期介入を行うことで、栄養状態の早期改善を目指すことを目的としている。

◎メンバー(2022.3現在)

委員長：永井麻紀(医療技術部)

診療部：高田美里

医療技術部：

(リハビリテーション室)佐藤 光、太田智子、石川 修、秋葉彩香

(栄養給食科)及川野絵子

(歯科衛生士)岸本恵美

看護部：圓城寺美佳、若松香寿美、細根ふさ子、

佐野真弓、加賀谷裕子、荻原真喜子、

荒川比呂美、三浦雪子、永井左和子、盧 蕊蕊

事務部：鈴木弘子

◎開催日

第1水曜日、午後1時

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、委員会開催の自粛をうけ、NST委員会は2021年5月、8月、9月、2022年2月、3月を休会とし、感染状況に応じてラウンドを休診した。)

◎活動報告

①日本臨床栄養代謝学会「NST稼働施設認定」の認定施設として、入院患者の栄養評価、栄養管理の指導・提言を行った。毎月、全入院患者を対象に栄養スク

リーニングを行った。さらに、週1回、栄養障害の疑われる患者に対し栄養回診・症例検討を行い、栄養障害の問題点を明確にした上で、適切な栄養療法の指導・提言を行った。また、患者限定栄養剤を使用中の患者の栄養状態の確認および継続の可否を検討、提案した。

【2021年度NST回診実績】

NST回診件数：新規43件、継続129件、終了33件
療養病棟32件、回復期リハビリ病棟97件

②褥瘡対策委員会と協働し、褥瘡のある患者に対し、適切な栄養療法の提案を行った。

③経管栄養製品の接続コネクタの変更について、円滑に変更できるよう、栄養・給食委員会と協働し、対象部署への情報提供を行った。また、変更に関するトラブルと対策に関する情報の共有を行った。

④病棟全体で適切な投与方法が実施されるよう、看護部とともに経管栄養の投与マニュアルの見直しを行った。

⑤NST勉強会を開催し、病院スタッフの栄養療法に対する知識の普及・指導を行った。

看護部主催新人研修「NSTについて」永井麻紀、及川野絵子 2021.4.7

⑥学会・研修会・実習 参加者

「第36回 日本臨床栄養代謝学会学術集会」(web参加)

高田美里、永井麻紀、及川野絵子、太田智子、石川修 2021.7.21-22

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

「第11回 日本リハビリテーション栄養学会学術集
会」(web参加)

太田智子、佐藤 光、石川 修 2022.1.15-16

「令和3年度 口腔機能管理研修会」(web参加)

太田智子、佐藤 光、石川 修 2022.2.7-24

⑦認定資格

「TNT修了」認定機関：日本臨床栄養代謝学会 高
田美里

「NST専門療法士」認定機関：日本臨床栄養代謝学
会 永井麻紀、及川野絵子、太田智子、佐藤 光

⑧NST教育セミナー研修受講終了

「NSTセミナー」開催機関：日本病態栄養学会 圓
城寺美佳

◎今後の目標

①2023年度から「栄養サポートチーム加算」算定を行うた
めの体制を整える。

②日本臨床栄養代謝学会の「NST稼働施設認定」の継続
を目指す。

③栄養障害の早期発見・NSTの早期介入を行うことで、
栄養状態の早期改善を目指す。

④褥瘡対策委員会と連携を図り、治療効果を上げる。

⑤積極的に栄養に関する学会や研修会に参加し、NST
委員の知識の向上を図る。

⑥院内研修会や勉強会を定期的に開催し、病院全スタッ
フの栄養療法に対するモチベーションとスキルアップ
を目指す。

⑦NSTに関する研究介入を行い、その成果をまとめ、
学会等で発表を行う。

その他委員会・会議

会議・委員会			
名称	委員長 (所属部署)	目的	開催日
倫理委員会	長尾建樹 (診療部)	・医学研究所所長より諮問された、ヒトを対象とする医学研究 および医療行為などについて、ヘルシンキ宣言(1964年採択お よび2013年世界医師会フォルタレサ総会での修正)の趣旨に沿 って、かつ、臨床研究に関する倫理指針(厚生労働省)等に準 拠し審査を行う委員会。病院長の諮問機関として当院の倫理 の質を向上させ、且つその水準を高く維持するため、病院長 が厳正な判断を促すのに正確な情報や考え方の提供を行って いる。	年数回
医学研究推進会議	遠山和博 (診療部)	・院内各部署へ研究テーマ提出を促し、会議内外で積極的なサ ポートを行う。また、医学研究所より配分される研究費を予 算内で効率的に活用できるよう検討する。その他、研究活動 に関わる議題について自由討議を行う。	第2金曜日
災害対策委員会	大木勇司 (事務部)	・設備の老朽化に伴う防災設備の更新。 ・各部署における防火・防災対策を横断的に行い、有事の際、 適切に対応できるよう整備する。	随時
医療事故・異状死 調査委員会	遠山和博 (診療部)	・医療法に基づき、当院に勤務する医療従事者が提供した医療 が起因または起因すると疑われる死亡であって、病院長が当 該死亡を予期しなかったものについて、その原因を明らかに するために調査を行う委員会である。2021年度は上記に該当 する事案の発生はなかった。	随時
医療ガス 安全管理委員会	檜貝修之 (事務部)	・医療ガスの安全かつ適正な使用に向け、体制整備を行う。	随時
薬事審議委員会	渡邊典子 (医療技術部)	・医療を行う上で必要な医薬品、血液製剤等の情報を提供し、 医薬品の適正使用の推進と診療の質の向上を図ることを目的 とする。 ・医薬品の供給体制について情報提供をする。 ・ポリファーマシーについて検討する。 ・院内採用医薬品の検討を行う。	第2月曜日
外来運営委員会 DMチーム	長尾建樹 (診療部)	・外来診療における業務の効率化および患者の利便性、感染予 防対策の徹底など患者本位の安全で安心な環境づくりを図る と同時に、外来患者の増加を目指すための方策を検討する。 ・疾病予防、健康増進のため、予防接種や健康診断、新興感染 症に対する外来診療体制を整備し、地域における公衆衛生活 動に貢献する。	第2火曜日

会議・委員会			
名称	委員長 (所属部署)	目的	開催日
臨床検査適正化委員会	前川名緒子 (医療技術部)	・検体検査における重要事項を審議し、管理運営の適正化を図る。 ・精度管理の確認および院内関連部署と検査室、双方からの要望、変更改善事項などを検討し報告する。	第3金曜日
ドック健診委員会	吉岡千晶 (健診部)	・充実した医療サービスの提供を検討し、ドック健診業務の効率的な運営を図る。	奇数月 第4火曜日
入院判定委員会	遠山和博 (診療部)	・他医療機関から紹介のあった症例について、当院での入院診療継続の妥当性を検討する委員会である。開催は議論が必要な症例があった場合に行われる。今年度の開催はなかった。	随時
保険査定返戻検討委員会	中基 昭 (診療部)	・毎月の支払基金からの査定返戻事例をもとに保険診療上の問題点を検討し、保険請求する上で、保険医として正確でよりスムーズな診療を目指す。	第3月曜日
診療録管理委員会	山田陽子 (事務部)	・診療記録の適切な記録と管理を円滑に行うために、診療情報管理に係る諸問題を審議する。	第1水曜日
診療記録録等開示委員会	遠山和博 (診療部)	・外部より診療録の開示要求があった場合、その要求の正当性を審査するとともに個人情報保護を確保し、開示に応ずる。今年度は事例がなかったため、開催しなかった。	随時
個人情報保護推進委員会	遠山和博 (診療部)	・職員に対し個人情報保護について教育し、個人情報が漏洩しないシステム作りを構築することを目的とする。2020年11月、当院の顧問弁護士を招聘し、個人情報保護についての講演会を開催した。	年3～4回
栄養給食委員会	及川野絵子 (医療技術部)	・嗜好調査に基づき患者の食事の改善を図る。 ・安心安全な食事を提供し、栄養状態の改善を図る。 ・褥瘡委員会とともに対象者に対する治療、予防のための栄養管理を検討、実施。 ・経腸栄養剤、栄養補助食品の見直し。	第3水曜日
広報・ホームページ運用委員会	檜貝修之 (事務部)	・院内および院外に当院の情報を発信する。 ・当院の利用者に対し病院が行う内容を明示し、当院への受診を促すとともに、地域連携、患者教育に役立てた情報交換の場を提供する。	第4金曜日
システム管理(電子カルテ)委員会	遠山和博 (診療部)	・当院における電子カルテシステム導入について、2021年2月の稼働開始を目指し、議論した。世界的な半導体不足・物流障害の影響により資材確保に時間がかかったことから、2021年6月からの導入に予定を変更し、継続している。今後も電子カルテ導入に向けた職員の教育やシステム関連の整備を行う。	第3木曜日
グループ連携委員会	成田 薫 (事務部)	・【佐倉厚生園病院グループが目的とする事業の遂行並びに本邦で推進されている地域包括ケアシステムに対するグループ内施設の有効活用と各施設の経営安定化】を目的とする。各グループにて得た各種情報の共有と諸問題の検討を行い、有意義な成果をあげている。	偶数月 第1月曜日
衛生委員会	大木勇司 (事務部)	・職員の健康保持増進、労働災害の防止に係わる対策を検討する。 ・労働安全に係わる諸規定の整備、相談窓口の充実化、ストレスチェックを実施する。	第3月曜日
予算委員会	長尾建樹 (診療部)	・診療報酬改定や地域の医療経済環境および過去の実績をもとに収入目標を決定した上で、それらに見合う医療材料と医療機材の購入や更新、施設改修などの設備投資、人材登用などによる支出を審議し、安定した病院収支を目指すことを目的とする。本年度は下半期の補正予算を作成した。年度末には次年度の予算策定を行い、その結果を収支改善会議や園議へ周知し病院運営の指針の一つとした。	随時

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所